

「手を動かしてまなぶ ε - δ 論法」(第3版1刷) 正誤表
(2026年4月4日版)

場所	誤	正
p. 17, 上から4行目	定理 2.1	定理 2.2
p. 27, 上から3行目	において	の両辺に a_{n-1} をかけて
p. 27, 上から4行目	(2)	(1)
p. 27, (3.8) 式	$\alpha = \frac{1}{2} \left(\alpha + \frac{a}{\alpha} \right)$	$\alpha^2 = \frac{1}{2} (\alpha^2 + a)$
p. 32, 定理 3.5 の証明	a (6箇所)	α
p. 32, 定理 3.5 の証明	b (6箇所)	β
p. 32, 定理 3.5 の証明	$[a_1, b_1]$	$[\alpha_1, \beta_1]$
p. 32, 定理 3.5 の証明	$[a_n, b_n]$	$[\alpha_n, \beta_n]$
p. 32, 定理 3.5 の証明	$[a_k, b_k]$	$[\alpha_k, \beta_k]$
p. 37, 上から6行目	有理数列	コーシー列である有理数列
p. 47, 下から11行目	上界	上限
p. 61, 下から7行目	n 次多項式	多項式
p. 80, 下から9, 10行目	等式~より	定義 7.2 の (2) より
p. 80, 下から7行目	を示すことができる	がなりたつ
p. 80, 下から7行目	(手のマーク)	削除する.
p. 85, 下から9行目	$n = 0$	$n = 1$
p. 97, (9.3) 式	(3)	(1), (3)
p. 97, 脚注	X	A
p. 101, 上から8行目	上界	上限
p. 101, (9.16) 式	$< r$	$\leq r$
p. 110, 下から2行目	A_n	$a_n = (-1)^n$ ($n \in \mathbf{N}$) とおき, A_n
p. 113, (10.15) 式	($n \rightarrow \infty$)	($k \rightarrow \infty$)
p. 121, 下から3行目	定義 9.1	定義 9.2
p. 122, 上から4行目	すなわち~になっている.	削除する.
p. 129, 130, 定理 11.5 の証明	a_0 (9箇所)	α
p. 138, (12.31) 式	(2)	(2)
p. 160, 上から9, 10行目	任意の~対して,	削除する.
p. 185, 上から5行目	$\alpha = 0, 1, 2, \dots$	$\alpha \in \mathbf{N}, n = 0, 1, 2, \dots, \alpha$
p. 187, 問 16.1	$x, y \in \mathbf{R}$	$x, y > 0$
p. 198, 上から9行目	(f^{-1})	(f^{-1})'
p. 212, 上から5行目	上限, 下限	下限, 上限
p. 219, 下から7行目	また	さらに
p. 222, (19.46) 式	最初と最後の「 \leq 」	$<$
p. 229, 下から3行目	$ \Delta $ (2箇所)	$ \Delta' $
p. 237, 下から10, 11行目	同様に~収束する.	削除する.
p. 237, 下から4, 5行目	$x = y \sim,$	削除する.
p. 239, (21.26) 式	$a + 0$	$+0$
p. 239, (21.27) 式	$b - 0$	-0
p. 243, 問 21.4	x_0 (3箇所)	c
p. 276, (24.29) 式	$\sum_{i=1}^n$	削除する.
p. 287, 解 10.2	$\limsup_{n \rightarrow \infty} a_n$	$a_n = (-1)^n + \frac{1}{n}$ ($n \in \mathbf{N}$) とおくと, $\limsup_{n \rightarrow \infty} a_n$
p. 291, 解 19.4 (2)	a (2箇所)	0
p. 291, 解 19.4 (2)	b (2箇所)	1
p. 292, 解 21.4	x_0 (「 $a = x_0$ 」の部分を除く 11箇所)	c
p. 292, 解 21.4	よって	よって, $a < c < b$ のとき
p. 292, 解 21.4	$i_0 =$	$i_0 \in$

その他

○ p.20 上から2~8行目, 下から1~3行目: 「さらに~よって」の部分を実次のように改め, 式番号 (2.23) を (2.20) とする.

よって, $n \in \mathbf{N}$ を $n = 2^N$ により定めると

○ p.128, 上から6行目: 「 $x \rightarrow 1 - 0$ とすると」の部分を実次のように改め, 脚注番号 4) および脚注 4) を削除する. (脚注 5), 脚注 6) は脚注 4), 脚注 5) となる.)

$x = 1 - \frac{1}{n}$ ($n \in \mathbf{N}$) とおき, $n \rightarrow \infty$ とすると

- p.219, 上から 4 行目: 「 Δ を \sim とし」の部分を変のように改める.

Δ_0 によって得られる分割された各有界閉区間の長さよりも幅が小さくなるような $[a, b]$ の分割 Δ を選んでおき

- p.219, 上から 8 行目: 「含むとし,」の後に次を追加する.

M_{i_0+1} を (19.2) において i を $i_0 + 1$ としたもとして定める. また,

- p.274, 上から 12 行目: 「 Δ を \sim とし」の部分を変のように改める.

Δ_0 によって得られる分割された各有界閉区間の長さとも δ よりも幅が小さくなるような $[a, b]$ の分割 Δ を選んでおき

- p.291, 解 18.4: 「このとき \sim となる」の部分を変のように改める.

このとき, $M_{i_0} = \sum_{i \neq i_0} f(x_{i-1})(x_i - x_{i-1})$ とおくと, $|f(x)(x_{i_0} - x_{i_0-1}) + M_{i_0} - I| < 1$ である